

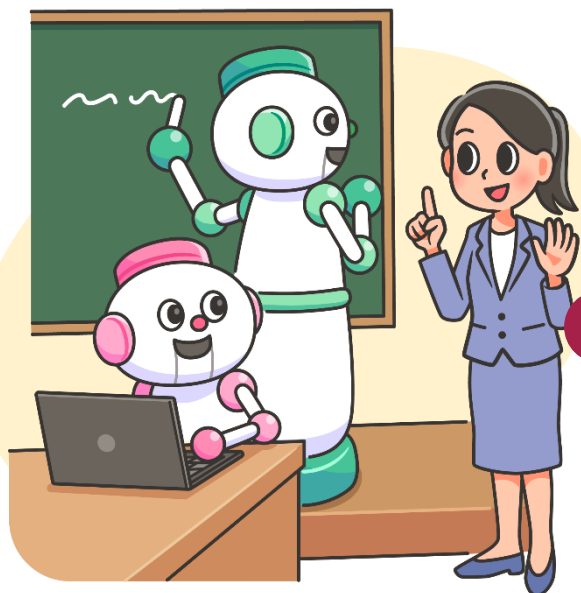


AIを活用して学校業務を効率化。そして、子どもたちにつけさせたい力は？

参加費
500円

ChatGPTを使った授業づくりと学びの未来を考える

学校でAIを活用するための ChatGPT学習セミナー



7/22(土), 7/25(火)

会話だけじゃない！業務に使えるAI

- ・ AIに問題作成を手伝ってもらう
- ・ おたよりや要録の作成の手助けに
- ・ クイズや学習支援を作成
- ・ エクセルの数式をを教えてもらう



講師 古賀大吉

セミナー内容

1. chatGPTって何？
2. 業務改善のためのAI利用
3. 授業の中でのAI利用
4. AIを活用する力



ChatGPTにプロンプトを与えて作成した問題例

問題：クラスの生徒が30人います。鉛筆を1人につき3本配ると、鉛筆が10本足りません。鉛筆は何本あれば足りですか？

問題：小学校の5年生が5人います。5人で鉛筆を均等に分けたら、1人に6本ずつ配ることができました。鉛筆は何本ありますか？

つぎのけいさんをしましょう。

1. $27 + 38 =$
2. $59 - 23 =$
3. $46 + 58 =$
4. $89 - 47 =$

【テスト問題】

つぎの漢字の読みをかきましょう。

1. (秋)の訪れを
2. 毎日の
3. 池の
4. (戸締り)を

プロンプト(指示)が
重要！

対象

教職員(小学校、中学校、高等学校など教育機関) ★知り合いの方を誘って
いただいてもかまいません。

開催日時

7月22日 10:00-11:00 ※両日、同じ内容を
7月25日 18:00-19:00 実施します。

参加費用

500円

参加方法

Zoomによるオンライン参加(定員50名)
右の登録フォームから申し込みしてください▶

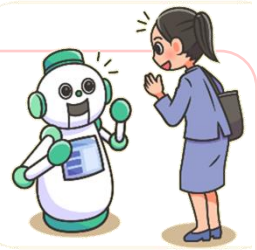
申込方法

<https://edu-net.co.jp/chatGPT202307>



ネット検索は「辞書」AIは「秘書」。一文字違いの大きな違い

えっ！ AIってここまでできるの？



保護者向けおたより

子どもたちと一緒に歩む、新たなるスタート

この表題も
AIが作りました

4月が始まり、春が訪れたことを喜びたいと思います。新しい緑が芽吹き、桜の花が咲き誇り、自然が生き生きとした姿を見せてくれるこの時期は、私たちにとって心躍るものであります。さあ、新しい年度が始まります。

新年度にあたり、私は子どもたちと共に新たなスタートを切る意気込みを持っています。

一人ひとりの個性や才能を大切にしながら、お互いを支え合い、助け合いながら成長していくことが私たちの目標です。

「教育とは、火をつけることであって、詰め込むことではない」。これはウィリアム・バトラー・イェイツの言葉です。私たちがすべきは、子どもたちに未来への希望を持たせ、自らが学び、成長する力を引き出すことだと思っています。

これから新年度が始まりますが、皆様と共に、子どもたちの未来への希望と夢を築いていくことができることを、心から楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

算数の文章題

30人の児童がいます。えんぴつを3本ずつ配ると、えんぴつは10本たりません。えんぴつは全部で何本ありますか。

5人の児童がいます。5人でえんぴつを分けたら、1人につき6本ずつ配る事ができました。えんぴつは全部で何本ありますか。

2桁の計算問題

つぎのけいさんをしましょう。

1. $27 + 38 =$
2. $59 - 23 =$
3. $46 + 58 =$

漢字の読みを問う問題

つぎの漢字の読みをかきましょう。

1. 秋のおとずれを感じる風がふいた。
2. 毎日の習慣を大切にしよう。
3. 池の水面には魚が泳いでいた。

子どもがAIを使える時代に、改めて「学ぶこと」について考えてみませんか？

指示待ちに慣れて判断力を失いつつある人々は注意が必要

AIが書いたレポートを見抜ける自信はないが…慶大教授がChatGPTの登場に「まったく心配ない」と言い切る理由

いいね! ツイート 印刷



慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授
清水 勝彦（しみず・かつひこ）

レベルの高い文章を自動で作成し、検索にも使えるChatGPT。慶應義塾大学のビジネススクールで教壇に立つ清水勝彦教授は「文章作成・校正に限ればChatGPTの実力とコストはすさまじい。しかし、何かを質問をすると『わかりません』とは言わず、ソースも示さずに間違った情報を出してくることも。指示待ちに慣れて判断力を失いつつある人々は注意が必要だ」と警告する――。

ChatGPTを過大評価して大騒ぎする必要はないと思うし、過小評価あるいは進化を妨げようとするのもおかしい。要はうまく使えばよいのである。

ただ、そこで忘れられがちなのは作業としての勉強や仕事ではなく、そもそもの「目的」「価値」は何であったかをもう一度真摯に見直し、自分の勉強や仕事への姿勢に正直に向き合うことではないかと思われる。